

NICTにおけるSLR関連調査研究

2019/3/7

国立研究開発法人 情報通信研究機構 國森 裕生
協力 有限会社 ティーティーシー 泉 忠 宇佐美 敬之

目次

- 1 はじめに
- 2 NICTにおけるSLR関連活動報告
 - 2-1 PLZTシャッター新設
 - 2-2 送受信アライメント 光学系構成
 - 2-3 試験観測状況 2018年1月～12月
 - 2-4 試験観測状況 取得データ詳細
 - 2-5 まとめ

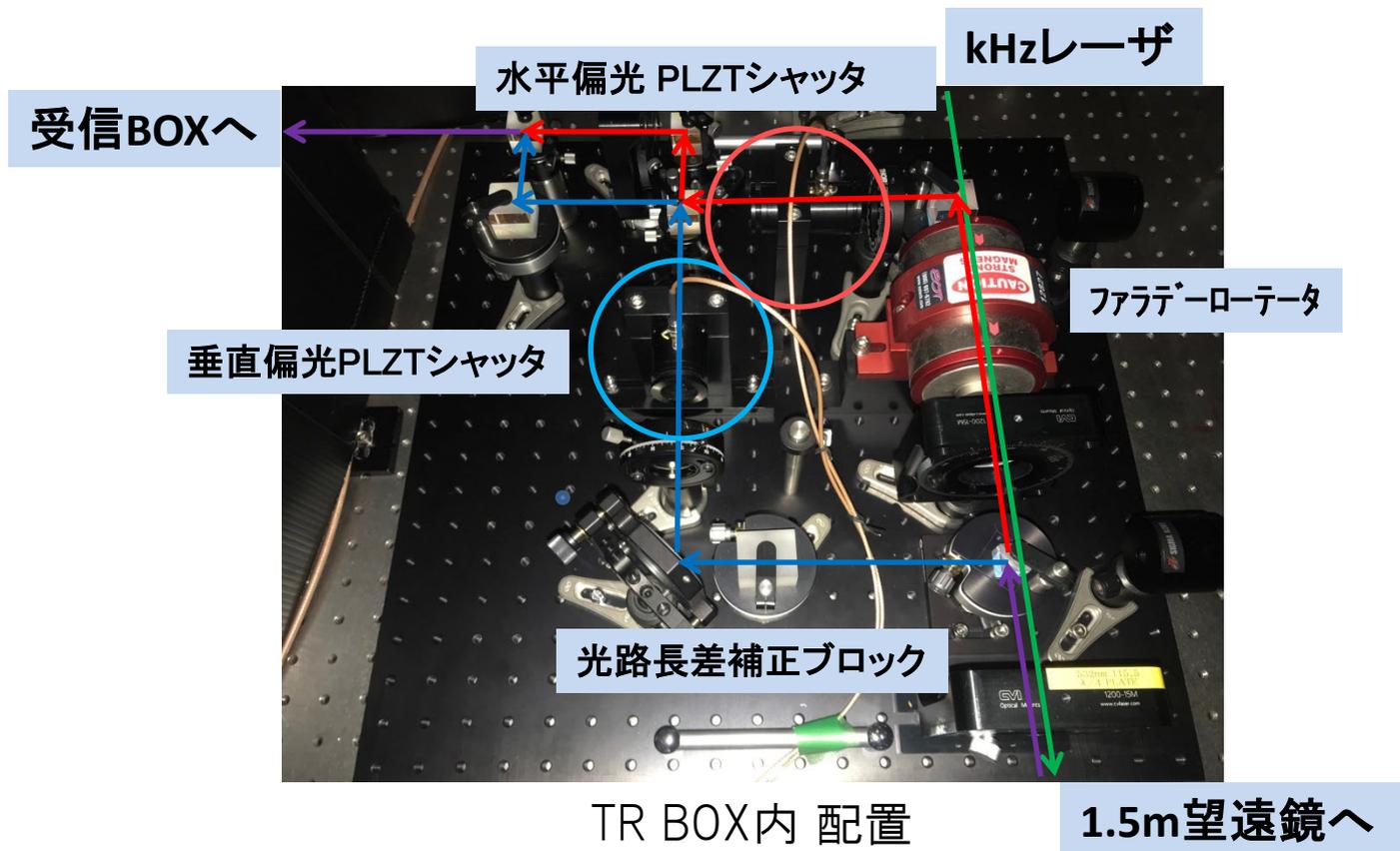
1. はじめに

NICTにおけるSLR関連活動報告

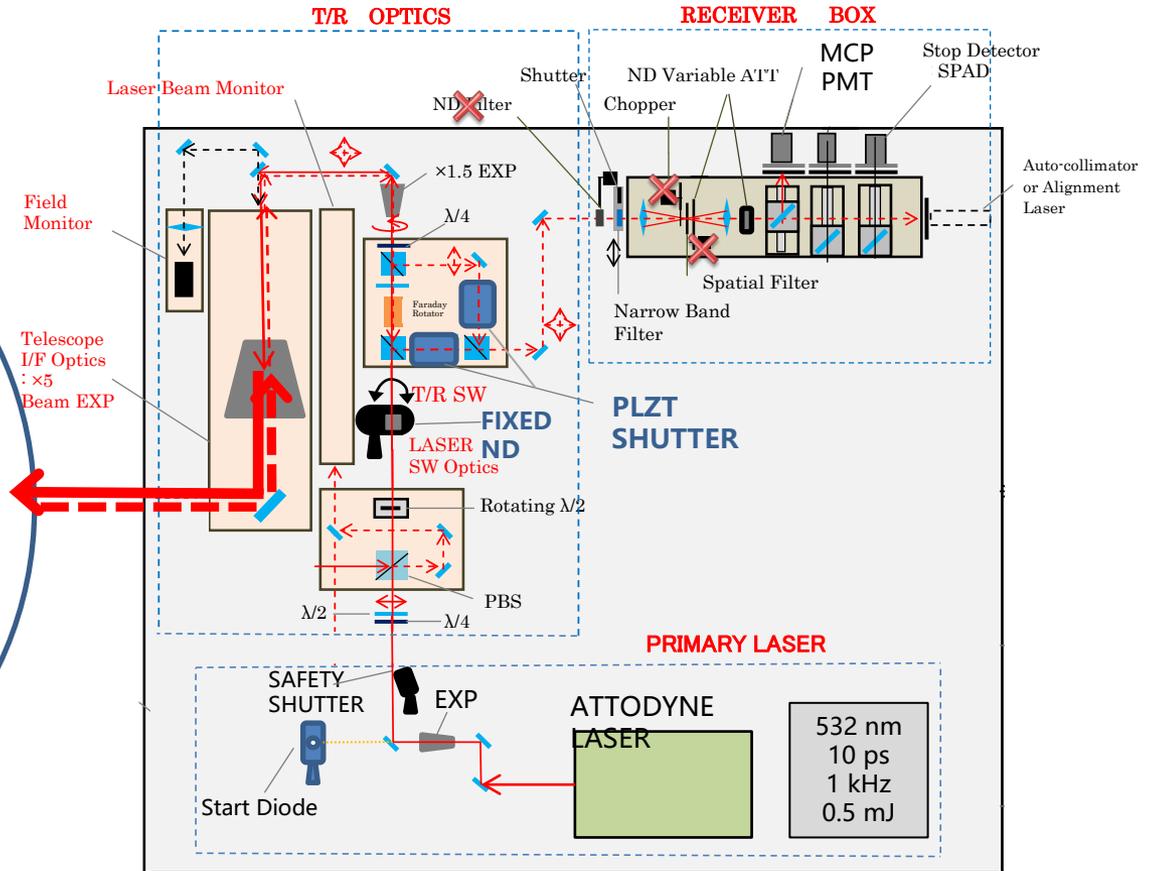
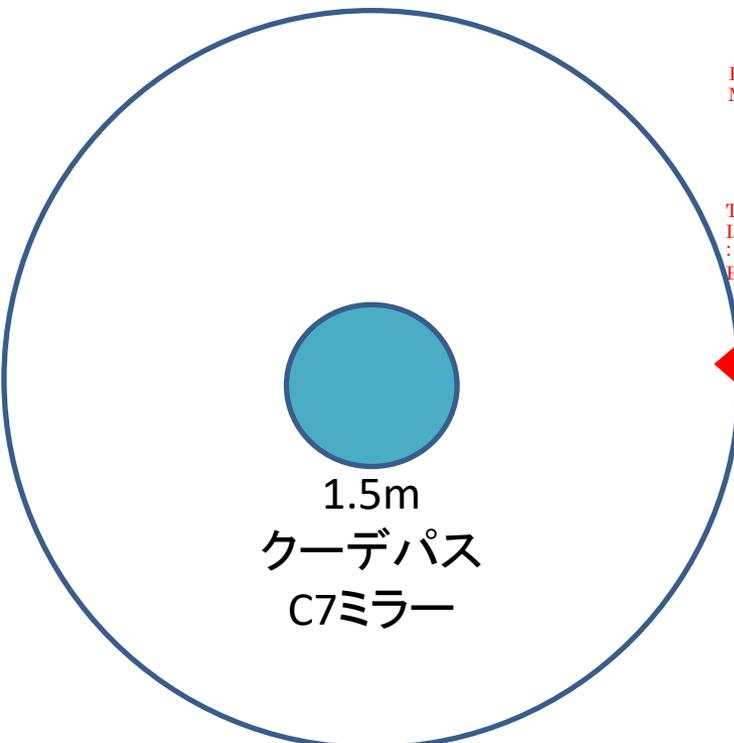
- 1kHzレーザー測距に伴う更新作業の説明
- 今年度試験観測データ取得状況報告
- RISESAT打上げ後、VSOTA実験状況(進行中)

2-1 受信系更新 PLZTシャッターを両系統に設置

- ・従来、モーター回転でチョッパーを同期させ受信を行っていたが、20Hz以上での測距が行えるよう、2017年12月にPLZTシャッターを水平偏光側に導入、垂直偏光は遮蔽して観測。
- ・2018年9月に垂直偏光側にもPLZTシャッターを導入し、試験観測を継続している。



2-2 送受信アライメント 光学系構成



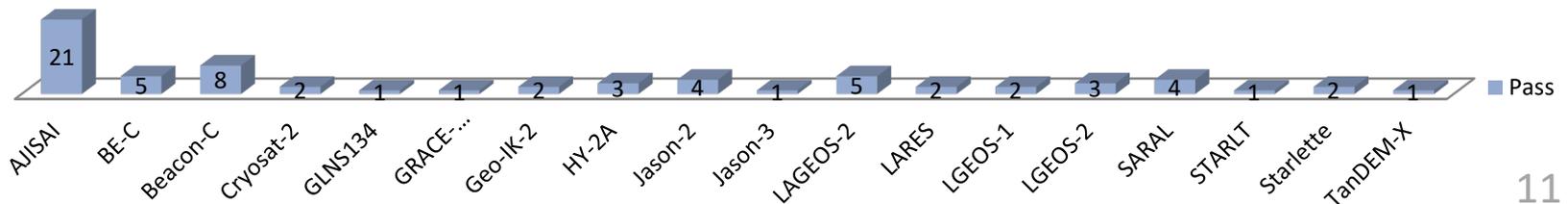
SLR OPTICAL SYSTEMS CONFIGURATION

2-3 試験観測状況 2018年 200Hz～1kHz

- ・2018年2月以降1kHzで試験観測を継続的に実施している。
- ・7月～8月に、雨漏りしていたドーム部の改修工事を行った為、期間中は観測未実施。
- ・9月前半にPLZTシャッター更新作業を行った為、期間中は観測未実施。
- ・空冷のkHzレーザ出力の変動が激しく、アライメントを繰り返しながら観測を継続中。

2018年 月別SLR PASS数一覧

SATELLITE	2018/01	2018/02	2018/03	2018/04	2018/05	2018/06	2018/07	2018/08	2018/09	2018/10	2018/11	2018/12	Total
	Pass	Pass											
AJISAI		1	1	1						1	4	13	21
BE-C	1	3		1									5
Beacon-C											5	3	8
Cryosat-2		1									1		2
GLNS134		1											1
GRACE-FO-1												1	1
Geo-1K-2										1		1	2
HY-2A	1									1		1	3
Jason-2	1	1										2	4
Jason-3			1										1
LAGEOS-2										3	2		5
LARES		1									1		2
LGEOS-1	1	1											2
LGEOS-2	1	2											3
SARAL	1	1	1									1	4
STARLT			1										1
Starlette											2		2
TanDEM-X												1	1
Total	6	12	4	2	0	0	0	0	0	6	15	23	68



2-4 試験観測状況 2018年 200Hz～1kHz

2018年取得データ詳細

SATELLITE	Pass	FR	NP	FR/NP
AJISAI	21	95945	240	399.8
BE-C	5	15996	71	225.3
Beacon-C	8	118188	130	909.1
Cryosat-2	2	2628	18	146
GLNS134	1	303	5	60.6
GRACE-FO-1	1	212	4	53
Geo-IK-2	2	3708	12	309
HY-2A	3	2816	22	128
Jason-2	4	1915	24	79.8
Jason-3	1	263	11	23.9
LAGEOS-2	5	1909	25	76.4
LARES	2	1553	28	55.5
LGEOS-1	2	1126	17	66.2
LGEOS-2	3	710	17	41.8
SARAL	4	1744	33	52.8
STARLT	1	87	2	43.5
Starlette	2	3380	17	198.8
TanDEM-X	1	71	4	17.8
Total	68	252554	680	371.4

2-5 まとめ

- 今現在、観測可能な環境を維持している状況
安定後、データの正確性を確認予定
- 1KHzで試験観測を継続中、ノイズの量が多く今後の課題
現在受信強度の調整やゲートの調整など課題解消中
その後、中～高軌道衛星のデータ取得にも挑戦していく予定
- VSOTAなど、関連実験とともに環境維持に努める

長期展望：

- NICT独自で測地用ルーチン局の維持をおこなうことは困難
光通信，スペースデブリの技術開発局
- 本会活動、共同研究などを通じ、他機関運用局の試験用
設備として活用されれば幸い。